

## 1 構想の背景と目的

秋川市と五日市町は、日の出町、檜原村とともに、同じ「秋川流域」として一体的な地域を形成しています。

この秋川流域4市町村は、歴史的にも、経済・文化・生活などの面でも結びつきが強く、既に阿伎留病院・秋川消防署、ごみ・し尿の衛生組合等において一体的な行政サービスが行われてきました。

また、道路などの整備とともに、住民等の生活圏や経済圏が拡大し、市町村の枠を超えた動きが活発化しています。

そのため、秋川流域では従来から4市町村間の連携の強化が重要な課題として挙げられ、特に合併については長年にわたってその必要性が語られてきました。

このような状況の中で、近年、秋川市と五日市町は合併に向けて積極的に取り組み、平成4年度には「秋川市・五日市町合併促進協議会」を設置し、行財政関連の調査も行いました。

市町村をまたぐ秋留台地の大規模開発や、東京40～50km圏を結ぶ圏央道の整備を控え、今、私たちのまちは大きく変わろうとしています。

21世紀に向けて夢と誇りの持てる都市づくりを進めていくには、両市町の合併を成し遂げ、一致団結して取り組んでいかねばなりません。

合併の実現には住民のみなさんのご理解とご協力が必要です。

そこで、本構想は、合併の効果を明らかにするとともに、秋川市、五日市町を一体的な市として捉え、21世紀初頭を目標に、新市の『将来像（将来ビジョン）』を描きました。

なお、将来的には、本構想をもとに、日の出町、檜原村を含めた合併を進め、秋川流域4市町村の一体化をめざします。

## 2 秋川市・五日市町の特性と課題

### (1) 秋川市と五日市町はともに緑豊かで、生活、文化、産業の面で密接な関係にあります。

秋川市と五日市町は、発展著しい東京40～50km圏に位置し、同じ秋川流域として隣接しています。

この地域は、現在、平坦部では市街化が進み、山間部では、人口の減少と高齢化が進んでいます。

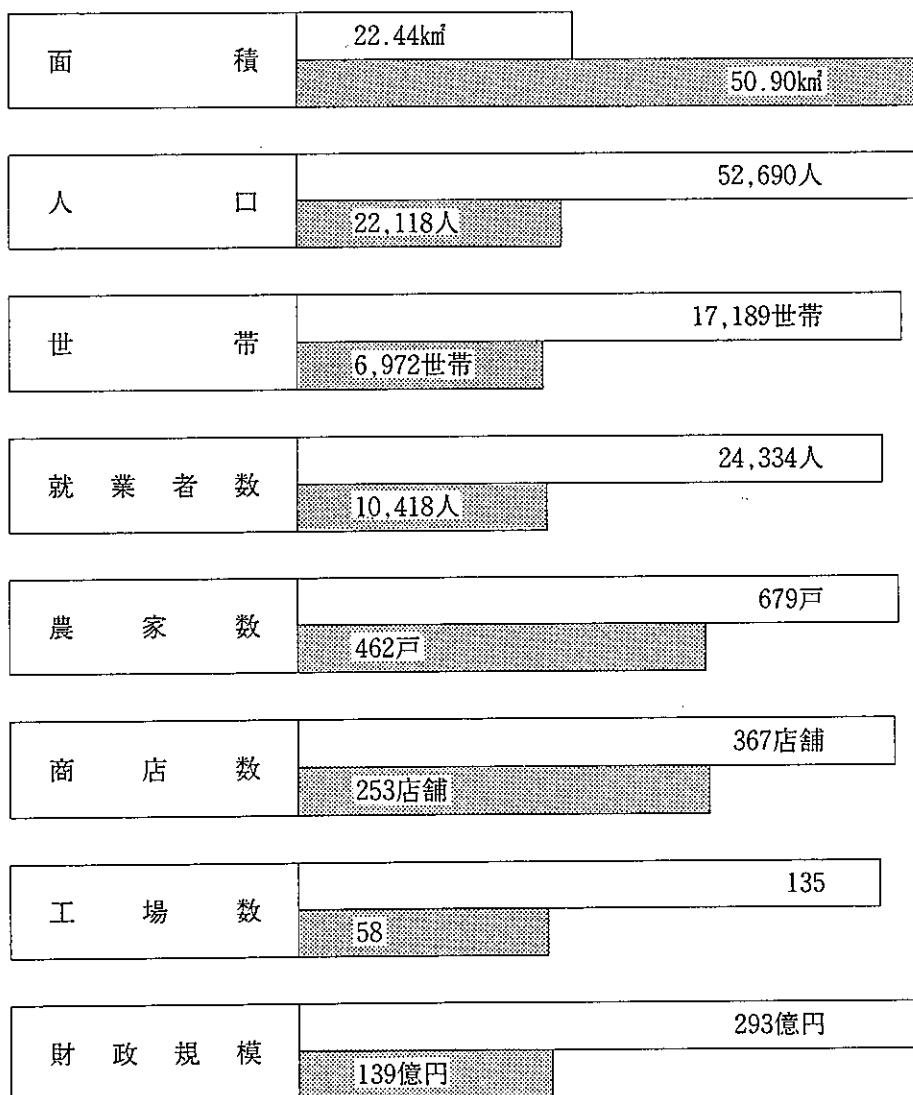
産業面では、これまで地域を支えてきた農林業が衰退しつつある反面、新たな企業立地が進んでいます。

また、通勤・通学などで、秋川市と五日市町の間は非常に密接な関係にあります。

(2) 秋川市・五日市町を一体的な地域としてとらえ、豊かな自然環境を活かしながら、秋留台等の開発を適正に誘導し、均衡ある発展を図る必要があります。

秋川市・五日市町の均衡ある発展を図るためには、6つの主要課題があります。

- 秋留台などの開発効果の活用と適正な誘導
- 山間部の産業振興と定住促進による地域社会の維持・発展
- 多様な価値観を持つ居住者の増加に対応した生活環境の整備
- 東京都心部から最も近い豊かな自然環境の保全と活用
- 地域の連携を促す交通体系の整備
- 首都圏、多摩地域における地域の個性化、イメージの向上



凡 例	
□ 秋川市	■ 五日市町

### 3 合併の必要性和効果

#### (1) 高齢化社会の到来に備え、財政基盤が強化されます。

秋川市と五日市町が合併すると、多摩地域（32市町村）の中で19番目の人口と財政規模を持つ新しい市が誕生します。

今後、急速な高齢化社会の到来が予想される東京・多摩地域にあって、新市の高齢化の度合いは7番目と高く、財政基盤の強化が欠かせません。

合併によって財政規模が拡大し、住民ニーズに対応した弾力的な財政運営が可能となり、高齢者福祉などの充実が図られます。

また、補助金や交付金の増額などの合併市町村に対する手厚い財政支援が現在検討されており、合併による財政上のメリットは非常に大きいといえます。

#### (2) 余剰財源を活用して高度できめ細かな公共サービスの提供が可能となります。

合併にともない、職員数や議員数の合理化、経費の削減、二重投資の抑制など、行政の効率化が進み、大幅な余剰財源が生まれることとなります。

その結果、ゆとりある生活を楽しむためのコミュニティ施設や各種文化施設など、それぞれの市や町単独では持てない公共施設の整備や、高齢者を対象とした在宅ケアサービスなどきめ細かな公共サービスの提供が可能となります。

また、生活の中で必要な道路や公園、下水道などの整備が進みます。

#### (3) 行政区域が広がり、計画的な都市づくりが進められます。

秋川市と五日市町が合併すると、連坦する市街地を二分する行政界がなくなり、多摩地域の市の中で3番目の面積を持つ市ができます。

その結果、より広い範囲を視野に入れながら、計画的な都市づくりを進めることができます。

具体的には、学校や福祉施設などの公共施設の適正配置、住宅や産業立地などにおける土地利用の適正化が可能となり、道路や下水道なども現在の行政界を超えて計画的に整備を進めることができます。

また、秋留台開発などの大規模なプロジェクトが円滑に推進され、これらの開発により得られる税収などの利益を地域全体で活用することができます。

#### (4) 地域イメージが確立され、人や産業の集積や交流が盛んになります。

近年は生活や経済活動が広域化し、商圈や企業誘致などで地域間競争が活発になりつつありますが、合併することにより地域がまとまり、域外に対する地域イメージの確立が容易になります。



## 4 新市の将来像

東京・多摩地域の新たな発展をリードする「人と緑の新創造都市」をめざします。

緑豊かな自然環境を活かし、ゆとりと楽しさが享受でき、創造的な文化活動や産業活動が活発に行われる「人と緑の新創造都市」の形成をめざします。

現在、両市町の人口は合計で7万人強ですが、平成22年（西暦2010年）には、11万7千人ぐらいの人口を有する都市となります。



昭和55年 62,810人



平成2年 71,940人



平成12年 93,000人



平成22年 117,000人

### (1) 新市形成の基本理念

- ① 人と緑が共生する新たな価値』を創造します。

「秋川らしさ、五日市らしさ」を活かした都市づくりを進めるため、人と緑との共生を図りつつ、社会変化に対応した『新たな価値』を創造し、地域の主体的な展開を図ります。

- ② 地域活力を高めるため『新たな連携』を図ります。

従来からのまとまりを踏まえつつ、地域全体の活力をさらに高めるため、生活や文化、産業などの多様な分野において地域内の『新たな連携』を深めます。

- ③ 東京・多摩地域における『新たな成長』のゾーンとします。

将来の理想的な都市づくりをめざし、ゆとりある住宅の整備と成長性の高い企業の集積を進め、東京・多摩地域における『新たな成長』のゾーンとします。

## (2) 新市の基本目標

- ① 新生活創造都市【緑豊かでゆとりある生活を楽しめる都市をめざします。】  
ゆとりある空間と時間を活用し、多様化、高度化する生活ニーズに対応した新たな生活を創造する都市をめざします。
- ② 新文化創造都市【緑との共生の中で自立した人と地域を育てる都市をめざします。】  
人と緑の共生を図りつつ、人と地域の自立志向を高め、新たな文化を創造する都市をめざします。
- ③ 新産業創造都市【緑豊かな環境の中で新たな産業を生み出す都市をめざします。】  
緑豊かな環境の中に産業活動を取り込み、新たな産業を創造する都市をめざします。

## 5 新市の都市づくりの方針

### ① 新生活創造都市

■風土を活かす生活空間をつくります。

豊かな自然環境を活用し、住宅、住環境、生活利便施設の整備を進め、緑豊かな生活空間を整備します。

■地域社会を担う人々をつくります。

高齢化の進展、出生率の低下、女性の社会進出の動きの中で、地域社会を担う重要な役割を果たす高齢者、女性、子供の活動を支援する環境をつくります。

■出会いのある交流環境をつくります。

多様化、高度化する生活ニーズに対して地域の資源を有効に活用するため、地域内の活発な交流を促すネットワークを整備します。

### ② 新文化創造都市

■創造する人をつくります。

自立的で創造性のある人の形成をめざし、地域の文化教養活動、社会教育活動、健康な体づくりを進めます。

■活動する地域社会をつくります。

地域社会の活性化を図るため、地域学習を推進し、地域組織、地域活動を支援します。

■誇れる郷土をつくります。

各種メディアを活用して、人や自然などの地域文化を積極的に域外に情報発信し、地域の個性を確立します。

### ③ 新産業創造都市

■創造する産業を育てます。

緑豊かな就業環境の実現に務め、新たな価値を創り出す研究開発型産業、芸術文化産業、クラフト型産業（手工業・工芸）を育成します。

■交流する産業を育てます。

広域的な交流による産業の活性化を進めるため、滞在型の観光・リゾート地や研修・産業交流施設を整備します。

■融合する産業を育てます。

産業間の融合による産業振興策として、複合的な商業拠点を整備し、余暇・レジャーとの融合の中で既存の農業・林業の活性化を図ります。

## 6 新市の地域別の方針

① 緑と共生する街【緑との共生の中で「職」「住」「遊」の融合する街をつくります。】

人口や産業の集積が予想される平坦部では、緑豊かな環境を活かしながら緑と人との共生を実現する街（緑と共生する街）をつくります。

② 価値を創造する森【生活、文化、産業の新たな創造・発展の「芽」を育む森をつくります。】

山間部では、生命の生まれ育つ森の環境を活かし、生活、文化、産業の新たな「芽」を育む森（価値を創造する森）をつくります。

③ 街と森が交流する川【平坦部と山間部を結ぶ人と活力のための緑の軸をつくります。】

平坦部と山間部をつなぎ、地域のまとまりを象徴する秋川、平井川などの川を人と活力のための緑の軸（街と森が交流する川）として整備します。

## 7 新市の発展プロジェクト

### PROJECT ①（創りましょう 地域振興の核）

① 高次の都市的サービスを提供する新市街地を整備します。

地域内での利便性、人口・都市集積等を踏まえ、地域の中心となる地区を高次の都市的サービスを提供する新市街地として整備します。

特に、高次の都市的サービスとして、行政、広域商業施設、余暇・レジャー施設、教養・文化施設等の集積を図ります。

■新市街地の整備

- |                   |            |
|-------------------|------------|
| ◎シビックセンター（市民センター） | ◎アスレチック施設  |
| ◎広域商業施設           | ◎イベント広場    |
| ◎アミューズメント（娯楽）施設   | ◎カルチャーセンター |

② 各地域の特性を活かした生活、文化、産業などの交流の拠点の整備します。

人口集積や交通の利便性、産業の立地、歴史文化資源や観光資源の蓄積といった各地域の特性を活用し、大規模な商業施設や文化情報センター、産業交流センターなどの交流の拠点を整備します。

大規模な商業施設としては、物販施設のほか、イベント施設、文化、教養施設、公共サービス施設などを整備します。

文化情報センターとしては、情報収集のための史料センターや中央図書館、文化交流センターや地域学習センター、情報発信のためのコミュニティ放送局やCATV（ケーブルテレビ）局、秋川渓谷美術の丘などを整備します。

また、産業では、産業情報の交流の場としての産業交流センターや農業公園、フォレストセンター（林業振興を目的とした施設）、観光センターなどを整備します。

■ 生活関連

- ◎大規模物販施設
- ◎飲食店街
- ◎ショールーム
- ◎コンサートホール

■ 文化関連■

- ◎史料センター
- ◎中央図書館
- ◎文化交流センター
- ◎秋川渓谷美術の丘

■ 産業関連

- ◎産業交流センター
- ◎農業公園
- ◎フォレストセンター
- ◎観光センター

## PROJECT ②（創りましょう 地域振興の個性を）

### ① 自然環境やライフスタイルを活かした住宅を整備します。

平坦部の市街地では、歴史や風土と居住者のライフスタイルを反映させた住宅を整備します。

エネルギー消費が少なく環境に優しい環境共生型住宅、農作業のスペースを持つガーデンハウス、創造的な活動ができるアトリエハウスなどの整備を図ります。

■ 地域住宅の整備

【環境共生型住宅】

- ◎自然エネルギーの活用
- ◎自然環境に配慮した設備
- ◎ゆとりのある住空間・住環境の整備

【ガーデンハウス】

- ◎菜園付き住宅の整備
- ◎市民農園一体型住宅地の整備
- ◎緑に囲まれた住宅の整備

【アトリエハウス】

- ◎アトリエ付き住宅の整備

### ② 山間部の集落を活用した整備を行います。

山間部の集落において、新たな産業の誘致と生活環境の充実を一体的に進めるクラスター状（ぶどうの房状）の整備を行います。

ここでは、森林環境を保全・活用しながら、新たな産業活動の場や住宅、生活関連施設の整備を進めます。

■ クラスター状（ぶどうの房状）の整備

【産業活動施設】

- ◎インテリジェントハウス

【住宅】

- ◎フォレストハウス



(情報基盤が整備されている住宅)

(森林環境と融合した住宅)

◎芸術・工芸関連の創作の場

【生活関連施設】

◎商店（ミニスーパー）

◎コミュニティ施設

◎地域サービス施設

③ 地域意識を高める環境運動を推進します。

新市をつなぐシンボルとしての秋川を活用し、豊かな自然環境と人を育てるため、地域意識を高める自然保護・活用等の環境運動を推進します。

■ 環境運動の推進

【運動に係わる体制の整備】

◎統括組織の設置と支援

◎地域や階層を横断する体制づくり

【地域活動としての展開】

◎生涯学習の一環としての展開

◎地域学習の一環としての展開

◎学校教育における課外活動

【運動の広がり】

◎自然保護から生活改善へ

(リサイクル運動への発展)

◎自然保護から自然活用へ

(経済活動への展開)

【域外への情報発信】

◎国際シンポジウムの定期開催

## PROJECT ③ (創りましょう 地域を担う人)

① 若い活力を取り込む高等教育機関を誘致・整備します。

若者が集い、地域ににぎわいと活力をもたらす大学等の高等教育機関を誘致・整備します。

特に、研究開発型の産業集積を促す自然科学系大学とゆとりある豊かな文化環境の形成を促す芸術文化系の大学を誘致・整備します。

なお、これらの高等教育機関では、地域住民に対する公開講座や地域企業との交流を行い、地域に開かれたものとします。

■ 高等教育機関の誘致・整備

【自然科学系大学】

◎情報処理関連

◎自然・環境関連

【芸術文化系大学】

◎美術・工芸関連

◎音楽関連

② 精神的なゆとりを楽しむ生涯学習センターの整備します。

社会人や女性、高齢者など、学校教育から離れた年齢層を対象として、ゆとりある時間を楽しむことができる生涯学習センターを整備します。

生涯学習センターでは、地域の人や資源を積極的に活用し、住民の自主的な運営を図ります。

■ 生涯学習センターの整備

【生涯学習の内容】

- 芸術文化
- 歴史文化
- 自然環境
- 園芸・農耕
- 伝統工芸
- 趣味・教養
- スポーツ・健康
- 国際交流

③ 自立自助を促す地域組織の整備します。

自立自助を促す地域組織を整備します。

住民の自発的な行動のもとに、地域との積極的な係わりの機械を創り出す地域組織を整備します。

地域との係わりが強い小・中学生、地域との係わりが希薄になる高校・大学生、職場を中心として動く社会人、子供の誕生とともに地域とのつながりが強くなる女性など、それぞれの状況に応じて、地域に対して働きかけができる組織を整備します。

■ 地域組織の整備

【活動内容】

- 社会福祉（高齢者在宅ケア等）
- 地域学習（郷土史研究等）
- 地域活動（施設運営管理等）

【組織構成】

- 少年の部（小・中学生）
- 青年の部（高校・大学生）
- 社会人の部（就業者、従業者）
- 女性の部
- 高齢者の部（シルバーエイジ）

PROJECT ④（創りましょう 地域発展の環境を）

① 地域での活発な活動を支える道路基盤を整備します。

地域の生活を守り、発展の基盤となる幹線道路を整備します。

平坦部においては、市街地の整備にあわせて、市街地の骨格を形成する新五日市街道などの幹線道路を整備します。

山間部においては、沢筋に伸びる道路の行き止まりを解消し、道路網としての回遊性を確保するとともに、域外の連絡性を高めます。また、秋川南岸道路等の整備を促進し、山間部と平坦部を結ぶ道路の機能を高めます。

■ 道路基盤の整備

【平坦部】

- 新五日市街道等の整備
- 地域の内外を結ぶ幹線道路整備

【山間部】

- 道路の行き止まりの解消
- 秋川南岸道路等の整備

② 人の交流を促す公共交通ネットワークを整備します。

地域内の人の交流を促すため、公共交通機関の整備を図ります。

五日市線の複線化、運行本数の増加、車両の増結、直通電車の増発、車両の整備などを要請し、鉄道の機能強化を図ります。

また、地域内の重要な移動手段となるバスについては、地域内の循環路線の整備や、観光周遊路線の機能強化を進めます。

さらに、多摩都市モノレールの実現や山間部での新たな公共交通機関の検討を図り、地域内の公共交通機関の機能強化を図ります。

#### ■ 公共交通ネットワークの整備

##### 【五日市線の整備要請】

- ◎複線化
- ◎運転本数の増加、車両の増結
- ◎立川駅始発化、直通電車の増発
- ◎快適な車両の運行（ホームライナー等）

##### 【バスネットワークの整備】

- ◎地域内の循環路線の整備
- ◎観光地周遊路線の機能強化

##### 【新しい交通システムの整備】

- ◎多摩都市モノレールの実現
- ◎新たな公共交通機関の検討

## 8 合併の実現に向けて

均衡ある発展をめざし 心はひとつ。

### ① 秋川市と五日市町は対等合併をめざします。

市町村の合併には、大きな市が周辺の町村などを吸収する吸収合併（編入合併）と、複数の市町村が対等の立場で合併する対等合併（合体合併）があります。秋川市と五日市町は、それぞれの地域のなりたちを踏まえ、対等合併をめざします。

### ② 新市の名称や新市役所の位置はこれから検討します。

秋川市と五日市町は対等合併をめざしていますので、「秋川」「五日市」の名称にはこだわりません。新しくできる市にふさわしい名称を検討します。

また、新しい庁舎をつくる場合には、現在の秋川市役所、五日市町役場の位置にはこだわりません。地域全体からみた利便性などを踏まえて、新しい市役所の位置を検討します。

### ③ 税金は大きく変わることはありません。

秋川市と五日市町では、市町村税、固定資産税、都市計画税などの地方税の一部で異なるところがありますが、合併により税金が大きく変わることはありません。

新しい市にふさわしい地方税のあり方については、これから検討します。

### ④ 地域全体の均衡ある発展をめざします。

新しい市では、地域全体を見据えて総合的に施策を展開することにより、周辺部でも中心部と同じような行政サービスの提供を行います。そのため、中心部と周辺部との格差は縮まり、地域全体の均衡ある発展が可能となります。

⑤ このようなところでは既に合併が進んでいます。

秋川市と五日市町では、他の町村とともに、保険医療、下水道、ごみ・し尿処理などの行政サービスを既に共同で行っています。

また、農業協同組合や漁業組合、木材協同組合、観光連盟なども、他の市町村とともに、既に一体的な組織として活動しています。

⑥ 合併には住民のみなさんの積極的な参加と協力が必要です。

本構想は、住民のみなさんの主体的な行動を期待したものであり、秋川市と五日市町の合併は、住民のみなさんの積極的な参加と協力によってはじめて実現されるものです。

このため、地域はもとより、域外に対しても理解と協力を求め、新たな都市の形成に向けて積極的に参加できる環境づくりに努めます。

⑦ 合併により21世紀のプロジェクトの実現が図られます。

今後、合併を進めるためには、本構想の発表を受けて、住民説明会を開催し、住民のみなさんの理解と協力を求めることが必要です。

また、今後は、具体的な合併作業を進める法定協議会が設置され、新市建設計画の作成、秋川市長、五日市町長の合併の署名、両議会と都議会の議決を経て、自治大臣の告示により新しい市が誕生します。

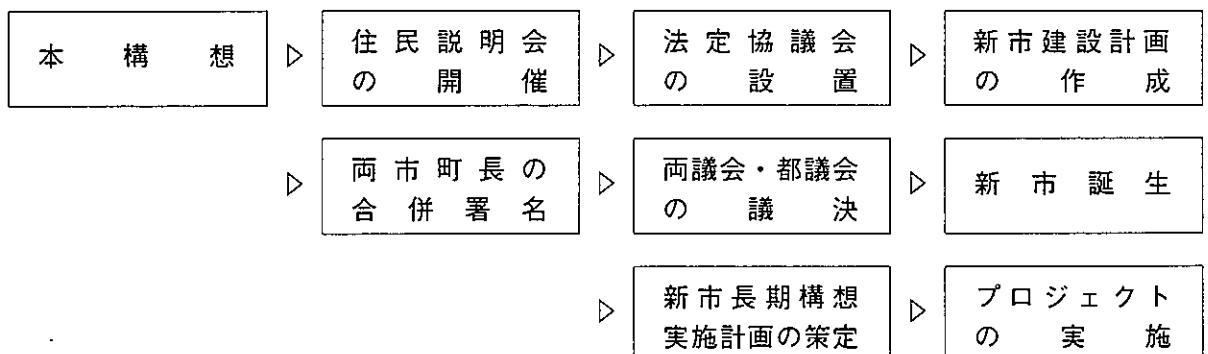
この新市では新たに長期構想や実施計画の策定を行い、本構想で示している具体的なプロジェクトを実施することになります。

⑧ 将来的には秋川流域4市町村の合併をめざします。

本構想は、秋川市と五日市町の合併を想定して、その将来像を示していますが、日の出町、檜原村を含む秋川流域4市町村は、歴史的にも、経済・文化・生活などの面でも結びつきが強く、同じ「秋川流域」として一体的な地域を形成しています。

そのため、日の出町、檜原村についても、合併に向けての環境を整えば、本構想で示している新市の将来像を秋川流域4市町村全体に広げて、秋川流域全体が一体となった新たな市の将来像とすることが考えられます。

## 9 構想実現への流れ



## 1 0 秋川市・五日市町将来構想策定委員会委員名簿

(敬称略)

委員長	村田喜代治	(中央大学教授)
副委員長	近藤智孝	(住民代表)
委員	御手洗幸雄	(住民代表)
委員	岡部駒橋	(住民代表)
委員	石川昌宏	(住民代表)
委員	中野績	(住民代表)
委員	山本太一	(住民代表)
委員	小林三枝	(住民代表)
委員	田島義郎	(住民代表)
委員	金嶽哲宗	(住民代表)
委員	中嶋昭七	(住民代表)
委員	森多一	(住民代表)
委員	井上正次	(住民代表)
委員	小机篤	(住民代表)
委員	池谷伊三郎	(住民代表)
委員	本堂節子	(住民代表)
委員	河野清亮	(秋川市収入役)
委員	松本實	(五日市町収入役)
委員	川島英男	(東京都総務局行政部地方課長)

## 1 1 秋川市・五日市町将来構想策定委員会地域部会委員名簿

(敬称略)

秋川市側		五日市町側	
委員	中村秀彰	委員	井上正博
委員	石川精一	委員	高橋敏彦
委員	綿田ふみえ	委員	天野洋子
委員	庭野富士子	委員	尾島有子
委員	私市豊	委員	栗原達夫